

歴史的仮名遣い :

古文の仮名遣いは、現代と異なっていた。発音も現代と違う。その為、仮名による表記の仕方は多様化していた。江戸時代それをわかりやすく整理したもの。

「昔の仮名遣い」

簡単に言えば・・・

① 現在とは異なるもの

☆ ハチャレンジ① \leftarrow

ある (こゑ) をとこ (はぢ) みづ

あるをぢづ
いえおじず

() () () () () () () ()

② 語頭や助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」

☆ ハチャレンジ② \leftarrow

はひふへほ
わいいうえお

・あはれ () () () () () () () ()
・こひ () () () () () () () ()
・いふ () () () () () () () ()

③ その他

「ぢ」 → 「ぢ」
「つ」 → 「つづら」

☆ ハチャレンジ③ \leftarrow 歴史的仮名遣いを探しだし、現代仮名遣いになおしてみよう！

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、

よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、

筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとつつくしうてゐたり。

☆意味が変化した言葉・古典に使われる言葉

古典で使われる言葉には、

- ① 形は現代語と同じでも、使われる意味が現代とは違うものや、
- ② 現代では、使われなくなったものがある。

☆ ハチャレンジ④ \leftarrow 現代語訳を見て考えてみよう！

今は昔	
よろづ	
あやし	
いと	
つつくしう	

「竹取物語」以外にも、様々な古典作品を読んでみよう！

古典が苦手な人は、昔話などを読んでみるのもいいかもね。

おススメ 「枕草子」 「平家物語」(2年生で学習します)

